



昭和
28年

花

大通に初めて花が植えられたのは明治9年ですが、本格的な花壇は明治40年に市民が自費で整備したのが始まりです。太平洋戦争を経て、大通公園からいったん花壇はなくなりますが、市民の強い要望を受けて、市が復旧を開始。昭和27年には市内の園芸店や造園業者などのグループによるボランティアでの花壇づくりが始まります。この活動団体はやがて札幌市花壇推進組合となり、現在も花壇コンクールなどを行い、多くの市民の目を楽しませています。



今年の大通公園花壇コンクールで市長賞を受賞した
(株)雪印種苗 すずき けんじ 鈴木 謙治さん

花壇の美しさを競うコンクールには、会社が花壇推進組合に加盟した昭和46年以来、毎年参加しています。花の成長を見込んでバランスや配色を吟味し、約1週間かけて造り上げます。北海道は寒暖の差が大きいので、本州よりも花の色が鮮やか。観光客も驚くほどです。大通公園で過ごす市民や観光客に喜んでもらえるよう、これからも花壇を美しく彩りたいですね。

↑ 戦後、復興してから数年後の大通花壇

大通公園の魅力



明治
13年

イベント

大通が初めてイベントの会場となったのは、明治4年の札幌祭り(現在の北海道神宮祭)といわれています。このほか、農業博覧会や競馬、小学校の運動会など、明治時代からすでにさまざまな催しの会場として使われていました。現在では、昭和25年に始まった雪まつりをはじめ、ライラックまつり、夏まつり、オータムフェスト、ホワイトイルミネーションなど、四季を通じて多彩な催しが行われています。



13年前からホワイトイルミネーションを担当している
札幌観光協会 いしかわ まさや 石川 雅也さん

ホワイトイルミネーションは、冬の大通公園を「明るく・暖かく」しようと、昭和56年に全国で初めて開催されました。昨年に30回を迎え、1,048球から始まった電球数は、50万球まで増加。一方、10年前から太陽光発電やLED化を進め、電力消費はピーク時の半分以下になっています。環境への負荷をできるだけ抑えながら、札幌の初冬の風物詩を今後引き継いでいきたいです。

↑ 大通公園で行われた第2回農業博覧会
(北海道大学附属図書館所蔵)

大通公園の見どころ

つどい(遊び・イベント)ゾーン

9 丁目



この森は形がクジラのように見えたことから「クジラの森」と呼ばれる。「くじら山」(滑り台)は子どもたちに大人気。

8 丁目



連続

イサム・ノグチの作品「ブラック・スライド・マントラ」。「この彫刻は子どもたちのお尻によって完成する」と彼は語った。

7 丁目



絶え間なく水が湧き出す水盤状の泉。高さ60cmと低く造られており、8丁目、9丁目まで見通せる。